

記者資料提供（2024年11月21日）

連絡先 公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金

事務局 後藤 石井（一）078-303-5315 support@kemohouse.jp

報道機関 各位

公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金（神戸市中央区） 子ども家庭庁 令和6年度健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰 団体部門優秀賞を受賞

この度、子ども家庭庁の令和6年健やか親子21内閣特命担当大臣表彰の「団体部門優秀賞」を受賞いたしますことをご報告します。当財団の活動を評価して頂いたことに大変光栄に思っております。これは、当財団の活動を支えていただいた関係者各位や多くの支援者や支援企業のみなさま、そして当施設を滞在、利用いただいた重い病気をもつ子どもと家族とともに受賞したものです。当財団は2005年、こどもが小児がんで付き添い生活をした親と医療者が中心となり、患児と家族の入院治療中のQOLを考える研究会を発足。研究会の中で「治療中でも家族が一緒にいたかった。」「きょうだいに会わせてかった」「子どもが大好きなかぼちゃスープを作ってあげたかった。」というような声が集り、「治療中でも家族と一緒に家のように過ごせる日本で初めての施設」の建設を目指し、多数の方々からのご寄付により2013年2月に神戸にチャイルド・ケモ・ハウスが完成しました。現在は、近隣病院に入院する小児がんや難病の子どもと家族のための滞在施設として運営しています。また、退院後の患児や家族の居場所としての「よりみち」の運営や、地域で重い病気をもつ子どもと家族の理解者を増やすため「あのねサポーター」養成講座、小・中学校でのがん教育を実施してきました。今回の受賞を機にさらに活動の幅を広げ、すべてのひとが生きやすい多様性を認め合う社会を目指してまいりますので、これからも引き続きご支援をお願いいたします。

1 団体部門優秀賞

神戸市中央区港島中町8-5-3

公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金

代表者 理事長 田村 亜紀子

2 取組事業名

「小児がんや重い病気をもつ子どもと家族のための滞在施設の運営と相談支援の実施」

3 表彰式

令和6年度健やか親子21全国大会（母子保健家族計画全国大会）

日時：令和6年11月21日（木）10:30～

場所：鹿児島県鹿児島市 宝山ホール（鹿児島県文化センター）

4 寄付のお願い

詳細は公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金HP
をご確認下さい。



健やか親子表彰 団体部門 優秀賞
公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金

小児がんや重い病気をもつ子どもと家族のための滞在施設の運営と相談支援の実施

活動の目的

2005年、こどもが小児がんで付き添い生活をした親と医療者が中心となり、患児と家族の入院治療中のQOLを考える研究会を発足。研究会の中で親にアンケートを実施したところ、「治療中でも家族と一緒にいたかった。」「きょうだいに会わせてかった」「ゴロゴロくつろげる場所が欲しかった。」「子どもが大好きなママのかぼちゃスープを作ってあげたかった。」というような声が集まりました。そのため、「子どもが治療中でも家族と一緒に過ごせる日本で初めての施設」を建設するべく2006年よりNPO法人として活動を開始しました。2010年財団法人を設立し、神戸に「チャイルド・ケモ・ハウス」の建設を決定。多数の方々からのご寄付により、2013年2月に完成しました。当初はチャイルド・ケモ・クリニックを併設していましたが、入院よりも付き添い家族の滞在のニーズが圧倒的に多かったため、2021年4月よりクリニックを休止し重い病気の子どもと家族のための滞在施設として運営しています。施設を設計時に、建築家の方に付き添い家族の想いを伝えたところ、「親が笑顔でなければ子どもは笑顔になれない。」と言ってくださり、チャイルド・ケモ・ハウスの各お部屋にはくつろいで眠れるベッド、ゆっくり湯舟につかることのできるお風呂、こどもにご飯を作ってあげられるキッチン、明るい陽射しが差し込む天窓などが創られました。

具体的な取組内容

- ・ 当施設では小児の入院付き添いをする滞在者を365日24時間体制で受けれており、滞在の支援、相談支援、自立支援事業、チャリティー・啓発活動、施設管理等を行っています。
- ・ 滞在希望については、疾患別では9割が悪性腫瘍、それ以外では先天性心疾患等のお子さんのご家族が多いが長期入院をされる方であれば疾患名による入居制限はしていません。
- ・ 長期入院生活においては家族がバラバラの生活を余儀なくされるため、できる限り家族と一緒に家のように生活できるような環境を提供しています。土日や夏休みなどはきょうだい当施設に来て家族と一緒に過ごしたり、就園前のきょうだいであれば、毎日当施設で生活しているお子さんもいます。当施設は長期入院付き添いをされるご家族の休息の場であり、生活の場となっています。
- ・ ファミリーサポート事業として、滞在者への相談支援をはじめあそびや預かりなどのサポートを行っています。相談支援では、日中や夜間に病院から帰ってきたときに不安なこと等をスタッフが傾聴しています。中には地元の行政の窓口につないだり、学校とのやりとりをサポートしたりという地域に帰っていくための支援も行っています。患児やきょうだいと遊んだり、スタッフと話をすることで必要な支援を検討したりもしています。
- ・ ハウス内イベントでは、食事提供やプロのバリスタによりほっとカフェやプロのカメラマンにより写真撮影など滞在ご家族に癒しの時間を届けています。
- ・ 小児慢性特定疾病児童等の自立支援事業の一環で行っている居場所づくり「よりみち」を週に2回実施し、当施設の一部を開放してふらっと立ち寄って遊んだり勉強できる空間にしています。当施設に滞在していなくても、近隣病院に入院されている方や地域で重い病気をもちながら生活されている方などを対象としています。
- ・ 退居後、地域に帰っていくお子さんやご家族が孤立することなく安心して生活できるようにという想いで地域の中に病気をもつ子どもと家族の理解者を増やす「あのねサポーター養成講座」を実施しています。
- ・ チャイルド・ケモ・ハウスチャリティーウォークは今までに10回実施し、延べ8794名の参加者となりました。重い病気のこどもと家族を支援したいと思ってくださる方や同じような経験をされた当事者たちが「自分もだれかのために」と一歩を踏み出すきっかけとなるイベントとなっています。
- ・ 利用者の口コミが広がり、19室の居室はほぼ満室の状態が続いています。

